

白 総 審 第 3 号
令和 2 年 8 月 2 8 日

白井市長 笠井 喜久雄 様

白井市総合計画審議会

会長 

白井市第 5 次総合計画後期基本計画について（答申）

令和元年 5 月 2 4 日付け白企第 4 7 号で諮問のありました白井市第 5 次総合計画後期基本計画の策定について、慎重に審議をした結果、下記事項に配慮するよう意見を付して別添のとおり答申します。

記

1 総括的事項

- ・行政、市民や地域での既存の取組において、できていることと、できていないことを明確にさせながら、できていないことの原因分析、立場を超えた課題共有、その克服に向けた連携・協働を柔軟に進められたい。
- ・目指す成果の実現までのプロセスを「見える化」するとともに、数値化された指標だけでは表すことができない成果を含めて、多角的に成果を問うことができるよう評価手法を工夫されたい。
- ・他自治体との比較などにより、白井の置かれているポジションを明確にするとともに、白井だけで完結するのではなく、行政をはじめ、市民や市民団体等が市域の枠を超えて連携するなど多様な広域連携を進め、新たな価値づくりを促進されたい。
- ・総合計画を頂点として、基幹計画と個別計画を体系化し、各計画の役割分担のもと、相互の連携を図られたい。
- ・市民等が後期基本計画の内容を具体的にイメージできるよう見せ方を工夫することにより、「もっと豊かに～みんなで取り組めること～」の活動の裾野を広げ、行政・市民・市民団体・事業者の重層的な連携によるまちづくりを進められたい。

- ・新興感染症の拡大や自然災害等は、ヒト・モノ・カネの動きに大きな影響をもたらしており、社会経済情勢にも不透明さがあることから、それらの動向を注視して柔軟な対応を図られたい。

2 個別事項

(1) 戦略1 若い世代定住プロジェクト

- ・若い世代の人生設計をめぐっては、「子育て・教育環境」、「住環境」、「働く環境」、「親の介護・自身の老後」といったことをトータルで考えていくことができることが重要なため、各種施策を分断せず、積極的な連携とその見せ方を工夫されたい。
- ・若い世代の置かれた状況に焦点を当て、待機児童ゼロという数値だけでは表せない保育の質や、若い世代の希望に応じた働き方など、「質」という側面の充実を図られたい。

(2) 戦略2 みどり活用プロジェクト

- ・白井における農業のあり方を時代に即して捉え直し、新たな農業経営スタイルの発信や、農業分野以外との連携を促進するなど、持続的な発展に向けた積極的な方向性を見出されたい。
- ・白井における「みどり」の価値の位置づけを深堀するとともに、学校教育から社会教育まで一貫して環境学習を積み重ねていくことができる体制を整え、環境活動に主体的に関わる市民の裾野を開かれたい。

(3) 戦略3 拠点創造プロジェクト

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、コミュニティのあり方が問われる中で、多様な形で人々がつながることができる手法を見出されたい。
- ・地域との連携のあり方について、分野ごとではなく庁内全体で本格的に整理するとともに、地域資源の共有から活用までを包含する媒介機能の向上を図られたい。